

地域医療を担うドクター vol.3

特別医療法人 博愛会 相良病院 さがらクリニック 21 さがらパース通りクリニック



相良病院と 博愛会理事長 相良吉厚先生

特別医療法人博愛会は、「患者さんと共に歩む」を基本理念に鹿児島市で女性特有の疾患に多面的に取り組むため「相良病院」「さがらクリニック21」「さがらパース通りクリニック」の3施設を連携し運営している。

その特徴は、予防・健診から診断・手術・治療・術後サポート・緩和ケア(ホスピス)と一貫した医療体制を築いている点である。

「相良病院」は、年間 560 例余りの乳がん手術を行い、婦人科・甲状腺科・緩和ケア科を併設する全国でトップレベルの乳がん専門病院である。

「さがらクリニック21」は、乳腺科・婦人科の女性専門外来クリニック。

「さがらパース通りクリニック」は、疾病予防・早期発見のための「健診センター」、さまざまな症状の甲状腺治療を行う「甲状腺診療センター」、画像診断や最先端の放射線治療を行う「放射線診療センター」を備えたクリニックである。

予期せぬ突然の外来担当 ツライ医師のスタート

「現在の博愛会の状況を見た人は、順風満帆でここまで来れたと思う人が大半だと思いますが、実際は決してそうではなかった。」と語る博愛会副理事長 相良吉昭先生。

「私は小さい頃から手術室・レントゲン室で遊んでいました。祖父も医者でしたが、それを止めるどころか、わざと見逃していたと思います(笑)。私を医者にさせたかったからでしょうね。おもちゃを買ってもらった記憶は全くありませんが、私を近くの本屋へ連れて行って『好きな本は何でも買いなさい』という



副理事長 相良吉昭先生

祖父でした。」

「私が幼稚園の時、そんなやさしい祖父が他界しました。ドクターである父が祖父の最後を見取りました。その時私もその傍にいて、自分も将来ドクターになるのだと感じたのを今でも思い出します。」

「その後私は医師免許を取得しました。普通なら医師免許を取得すると、大学に残って臨床研究を行う訳ですが、私にそれは許されませんでした。それは、相良病院で勤務医がやめてしまい、ドクターが父と非常勤の先生の2名になってしまったからです。当然、私は呼び戻されました。医師免許を取得してすぐに外来を診なければならぬ。薬のことなどまだまだ知識が不足している状態で、父に指導を受けながら乳腺科の外来を診ました。午前診療が終わるのが、夕方4時くらい。少しご飯を食べようと思ったら、その間に午後の患者さんが何十人も待っている状態でした。父は、夕方外来を終え、それから手術を行う毎日。肉体的にも精神的にもこの時が一番つらかったですね。こんな状態が1年以上続きました。自分より年上の父がこれだけやっているのですから、弱音は吐けなかったですね。」と、当時を振り返られる。

「今となっては良き思い出ですけど、こんな経験してきたので仲間のドクターが一人また一人と増えることが大変嬉しいです。現在では、信頼できる26名のドクターが診療に従事しています。」

同じ境遇の患者さんを集める 女性患者さんの心理面へ配慮

「博愛会は、最初から女性特有の疾患にトータルにアプローチするという形態を考えて出発した訳ではありません。原点である相良病院は、早くから乳がん専門病院としてやってきました。乳がんの手術が増えてくると当然リンパ浮腫の患者さんも増えてくる。であればリンパ浮腫外来をつくらうとか、また、放射線治療を必要とする患者さんが増えてきたので放射線診療センターをつくらう、と進んできました。要するに、ハード・カタチを先に創って患者さんを集めたのではなく、患者さんニーズに対応するため、今の形態になったということです。こういう具合ですからマンモグラフィーの導入は早かったのですが、全国的にみてもマンモトーム(吸引式組織生検)の導入は遅かったと思います(笑)。」



さがらクリニック21とさがらパース通りクリニック

「結局、患者さんニーズに対応する中で相良病院・さがらクリニック21・さがらパース通りクリニックの3施設を運営することになった訳ですが、同時に女性患者さんの心理面への配慮という大きな側面も活かされました。その配慮というのは、同じ境遇の患者さんを集めるということなんです。」

「相良病院のみで対応していた時、患者さんに、相良病院はちょっと怖い!というイメージを抱かせていたみたいです。なぜかという、がん患者さんがたくさんいる待合室に検診目的で来院される患者さんもいる。それは、がん手術や再発を告知されて『泣いている患者さん』と、検診で異常がないと告げられ『喜んでいる患者さん』が待合室で混んでいるということです。ですから、こういうイメージを抱かれるのも当然だったと思います。」

「『泣いている患者さん』が『喜んでいる患者さん』を見ると、ますます悲しくなるでしょう。ですから、博愛会では患者さんにこういった思いを抱かせないように、また、同じ心理状態の患者さんを集めるた

めに3つの施設が役割・機能分担をしています。私たちが患者さんの心理面に一番配慮しているのはこの点です。」

「病院見学に来られた方から、患者さんニーズに対応するために3施設運営することは良くわかるが、経営的な面では人件費が多くかかるのではないか、設備が増えてコストが大変でないかと、よく尋ねられます。そのような質問に対して私は、フォーカストファクトリー型医療を目指してきたと答えています。つまり私たちは、総合病院より専門病院に徹底して特化しようと考えました。専門に特化することで、医師は同じ手術を繰り返すことになり、手術の腕も上がりますし医療の質も上がります。高額な医療機器を導入しても稼働率は高まりますし、不要な技術や設備投資を減らすことができます。また、同じ悩みを持つ患者さんが集まるため、そのニーズに対応できるスタッフを適材適所に配置できます。」



デジタルマンモグラフィー

「様々な疾患の患者さんのニーズに応えるという考え方でなく、女性医療に絞込むことにより医療の質を高め、経営的には、診療コストを引き下げることができます。私たちは、今後もさらに専門特化への選択と集中が図れる医療機関を目指したいと考えています。」

患者さんの不安に耳を傾け 「ココロ」と「カラダ」をサポート

博愛会では、他の施設と違う点で乳がん体験者の会「いずみ」が創設されている。

「いずみ」では、相良病院を退院した乳がんの患者さんが体験者ボランティアとして外来・入院の患者さんのお手伝いをされているという。

「いずみ」に所属するボランティアの方々は、自分が入院した時、何が足りなかったのか?何に困ったのか?という視点で参加・運営している。

「乳がんの患者さんにとって医師やスタッフが専門的にアプローチすることは大切なことですが、患者さんのご心配・ご不安なことに経験者が自分たちのこととして話をしてくれるのは、大きな励みになると思います。1985年、患者さんの不安に耳を傾け、メンタル面を含めたサポートも行う、という目的で『いずみ』は発足しました。」

現在、「いずみ」ではボランティアの輪が拡がり、1000名を越す会員がいる。

「いずみ」が運営するショップでは、化学療法での副作用で脱毛した患者さんの相談に乗ったり、医療用かつら・補正下着の販売も行っている。

手術を控えた患者さん、手術を終えた患者さんにとって、「いずみ」は大変有難い存在だと思う。今年、「いずみ」は NPO 法人になるといる。

かかってからの医療・かからせない医療 ドクター目線を下げた予防医療の実践

「当院では1973年に九州で初のマンモグラフィーを導入するなど、早くから乳がん検診を積極的に行っていました。かかってからの医療(急性期医療)も大切ですが、かからせない医療(予防医療)も大切です。乳がんの死亡率を下げるには、マンモグラフィー検診が不可欠です。現在、その一環としてマンモグラフィー検診車も運用しています。また、一般の方々に乳がんの啓蒙・啓発を行うためには、私たちドクターの目線を下げ、患者さん視点になることが必要だと考えています。」

「当院のメディカルフィットネスやカフェの位置づけは、一般の女性がいかに気軽に来院して相談して頂けるかをカタチにしたものです。」

メディカルフィットネスでは、生活習慣病の患者さんや術後の患者さんが肥満防止のために運動を行っている。メディカルフィットネスのスタッフは、各施設でリンパマッサージの指導もしているという。



メディカルフィットネス

相良病院は、九州で唯一、読影拠点医療機関として認定を受け、マンモグラフィー読影医が不足している施設の遠隔診断支援も行っている。現在、鹿児島県の人間ドックや婦人科関連の4施設の遠隔読影を行っている。遠隔診断はインターネットを介して行い、原則、その日のうちに返答している。依頼元の施設では乳腺専門医を雇用する必要もなく、しかも乳がん専門病院と連携しているというメリットがあり、今後も依頼施設は増加すると思われる。

地域連携・へき地医療の実践

「これまででは、自分たちの病院だけで医療を行ってききましたが、現在では、地域と連携して、へき地医療にも力を入れていきます。薩摩川内市と契約を結んで上飯島診療所で週3回かかりつけ医としての診療を行っています。今までドクターがいなかった診療所なので、島民の方々からも大変喜ばれています。」



乳がん検診車とスタッフ

また、「乳癌単独」の鹿児島県がん診療指定病院に県内で唯一指定された。

「私たちは、患者さんニーズに対応することを積み重ねて、現在行っている医療にたどり着きました。振り返ってみると、自分達がやってきた医療と厚生行政が、段々マッチングしてきたように感じます。医療機関も経営のベースがあつてこそ、より良い医療が提供できると思います。私は、医療機関にとって、ドクター・スタッフが、患者さんのニーズに真摯に向き合うという同じベクトルの上に立って、現状に満足することなく変革し続けることが大切だと考えます。」

※ 本文中のデジタルマンモグラフィー・マンモトーム・フィットネスマシンは弊社で取扱っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

施設名: 特別医療法人 博愛会
相良病院・さがらクリニック 21・さがらパース通りクリニック
場所: 鹿児島市松原町 3-31

取材・編集担当
アイティーアイ株式会社 営業本部 満尾・小川
福岡市博多区博多駅前 3-7-37
Tel: 092-472-1881

支店
福岡・北九州・久留米・長崎・佐世保・大村・大分・熊本・八代・
鹿児島・宮崎・沖縄
営業所
山口・筑豊・佐賀・五島・天草・川内・延岡・都城・鹿屋
連絡事務所
東京・東関東・千葉・東京西